

万博ロードマップの 振り返り

万博で目指すもの、達成目標（ロードマップ抜粋）

万博で目指すもの

- ・ 丹後の地域一体となった取組の実現
- ・ 自然、文化、産業等の様々な「いのち」の魅力向上・発信
- ・ 地域間連携、国際交流などにより、誘客・交流を実現

万博に向けた機運醸成

意識変革

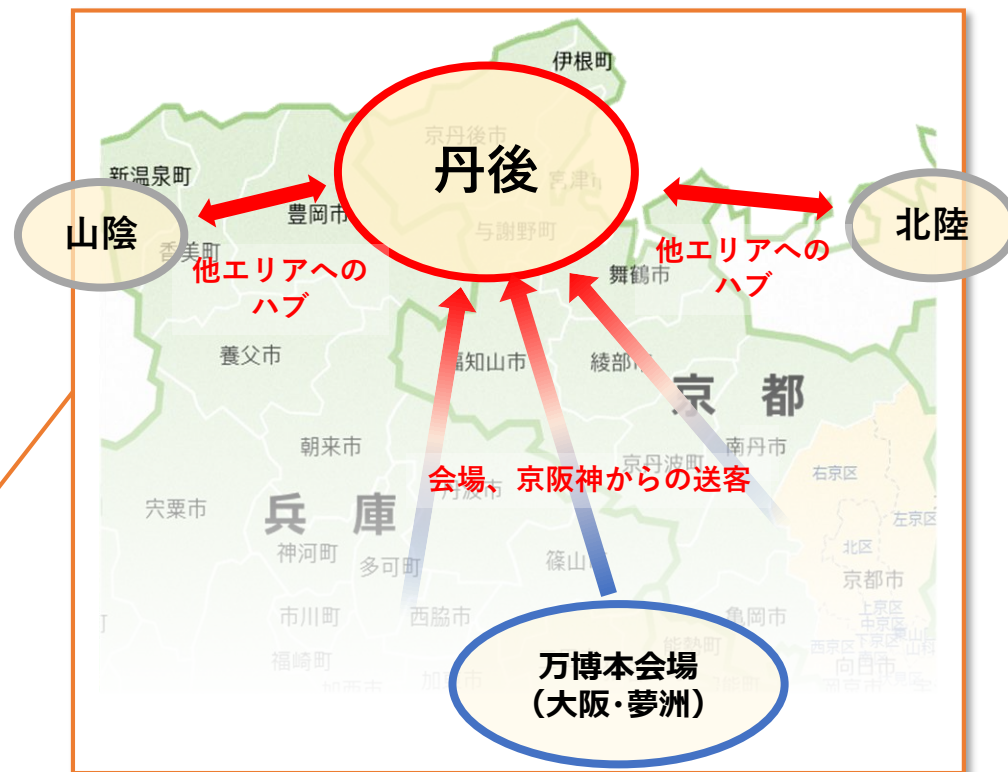
魅力向上

情報発信

誘客：交流

魅力の向上・発信、京丹後が
丹後の中心となって地域外と
の交流を促進。

万博期間中は、他エリアとの連
携を図りながら関西周遊の
ハブとなることを目指す。



2025大阪・関西万博で実施した取り組み

注力度

- 万博期間中の導線等
- 受け入れ態勢の強化

- 丹後万博
- 文化芸術の振興
- 自然環境保全活動

- 世界長寿サミット
- 健康・美・長寿に関する取組
- 地域一体型オープンファクトリー
- 京丹後市100人カイギ
- 情報発信

万博で目指すもの、達成目標について

○「健康・長寿」「産業」「環境」を取組の柱として以下の目標を達成できたか評価

万博で目指すもの、達成目標	結果
1. 丹後の地域一体となった取組の実現	✓ 本市だけでなく、与謝野町や宮津市、伊根町などと協力しオープンファクトリーや世界長寿サミットなど実施できた。
2. 自然、文化、産業等の様々な「いのち」の魅力向上・発信	✓ 万博会場や本市内において自然、文化、産業加えて健康・長寿等に関連するイベントや催事を行うことで、多くの方に本市の「いのちの輝き」を発信することができた。
3. 地域間連携、国際交流などにより、誘客・交流を実現	✓ 国内では近隣市町、海外では欧米や中東などと連携、交流を行うことはできた。 ✓ 一方で、誘客については来丹者が多くなったとは言えず、課題の残る結果となった。
4. 関西周遊のハブとなることを目指す	✓ 京阪神や北陸、山陰地方など他エリアとの連携不足により、万博期間中に関西周遊のハブとなれなかった。
5. 推進協議会で決めたKPIを達成する (万博期間中の来訪者数2500人【推計】)	✓ 万博期間中の本市への来訪者数目標は達成することができた。 (来訪者数実績【万博閉幕時】約3000人)



総括

- 万博開催期間中に「健康・長寿」「産業」「環境」を柱に取組を万博会場内外で実施したことで、本市の魅力向上と情報発信を効果的に行うことができた。
- 誘客について万博期間中の来訪者数目標は達成したものの、更なる誘客数増加を目指し、今後、万博をきっかけに実施された取組をレガシーとして引き続き取り組んでいくと共に、導線確保や受け入れ態勢等についても検討する。

2026年度以降に継承していくもの

万博レガシーについて

1. 目的

大阪・関西万博を一過性のものとするのではなく、万博閉幕後もその価値や取組を引き継ぎ、**発展させることで**市民総幸福のまちづくりに役立てていくこと

2. 「万博レガシー」の定義と選定基準

○定義

多様性を尊重し受け入れることで、「いのち輝く未来社会のデザイン」を実践した大阪・関西万博に則って、本協議会が取り組んだ中で、万博開催後に未来へ引き継いでいく価値や取組

○選定基準

- ①大阪・関西万博がきっかけで始まった取組である
- ②国際的な取組である

①, ②ともに当てはまる取組	①, ②のどちらかに当てはまる取組
<ul style="list-style-type: none">○世界長寿サミット○健康・美・長寿に関する取組 (ヘルスツーリズム、健康・美・長寿推進協議会、長寿よさこい等)○地域一体型オープンファクトリー	<ul style="list-style-type: none">○京丹後市100人カイギ○丹後万博(学生の発表の場)

✓ その他の取組を今後一切しないということではないが、すべての取組をレガシーにするのもふさわしくないと判断。

本市における「いのち輝く未来社会」＝「百才活力社会」・「市民総幸福なまち」の実現を目指す

健康・長寿の取組

「世界長寿サミット」や「ヘルスツーリズム」などの取組に加えて、「美食都市」や「メディカルツーリズム」といった要素も加えて健康長寿に関連する取組を促進する

産業振興の取組

万博を契機に本格的に開始したOFや100人カイギなどの取組を継続し、来訪者や事業者間での交流を促進することやビジネスチャンスを創出する環境を作り出す

学生参画の取組

丹後万博を学生主体で開催しSDGsの理念の浸透や今後のまちの姿を考える機会となった。万博開催後も地方における産官学連携や学生発表の場の確保に努める

万博レガシーについて

～2024



2025



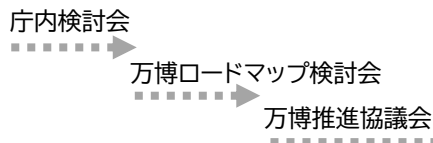
2026年度以降

目指す姿

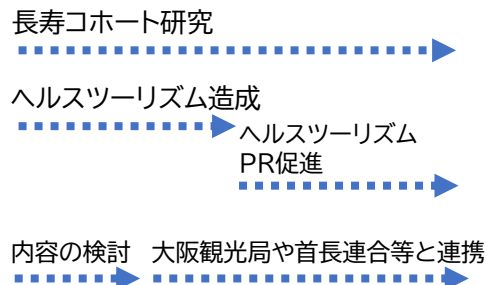
- ・丹後地域一体となった誘客・交流
- ・様々な「いのち」の魅力向上・発信

LEGACY + BEYOND

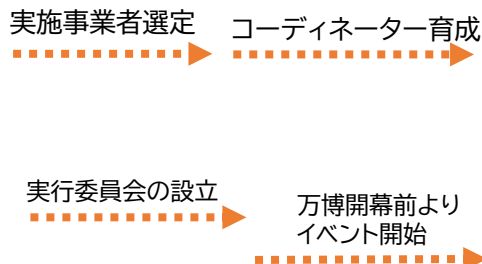
実施体制



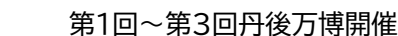
健康・長寿の取組



産業振興の取組



学生参画の取組



- 域内では多様な交流が生まれた一方で、域外での交流は限定的なものになった
- 健康長寿、産業、自然、文化等様々なテーマで発信を行った

ウェルビーイングやSDGsの精神を未来に受け継ぎ発展させていく

世界長寿サミット

- 次回第2回の開催をイタリアで検討、その後も継続して「世界長寿サミット」を実施
- 市民の健康長寿意識の向上
- ウェルビーイングな街を目指し、京都府立医科大学との連携を引き続き継続する

健康・美・長寿に関する取組

- “長寿のまち”というブランディング形成、市民の健康長寿意識の向上
- 健康、長寿、美食を絡めたツーリズムの展開(大阪観光局等との連携を含む)による観光入込客数の増加

地域一体型オープンファクトリー

- 2026年度以降も参画業種を増やししながらオープンファクトリーを実施
- SNSの運用でコストを抑えながらオープンファクトリー参加者数を増やす
- オープンファクトリーで生まれた海外との交流を活かし、販路拡大を目指す

京丹後市100人カイギ

- ゲスト登壇100名を達成するまで継続して実施
- 丹後を拠点に様々な取組を行う方が交流し、新たなチャレンジが生まれるコミュニティ形成に寄与する

丹後万博(学生発表の場)

- 高校生がSDGsの視点をもとに企画したコンテンツを発表する場を設ける
- 各種企業や団体と学生が交流し丹後の魅力を発見する機会を提供する

個別の取組みの振り返り

概要

- 同じ地域で働く人同士の自然なつながりを生み出すことを目的とする交流イベントを実施し、万博をきっかけとして繋がりを創造。
- 毎回5人ずつのゲストが登壇し、自身の活動やこだわり等について、取組発表を行う。20回開催・100名のゲスト登壇を目標として実施していく。
- 登壇者同士、参加者同士が、肩書きや属性ではなく「想い」でつながり、新たな交流や本市資源の再発見を促進するとともに、新たなチャレンジ（ビジネス、地域づくりの活動、教育など）の生まれる基盤（コミュニティ）をレガシーとして形成することを目指す。

2025年に目指す姿

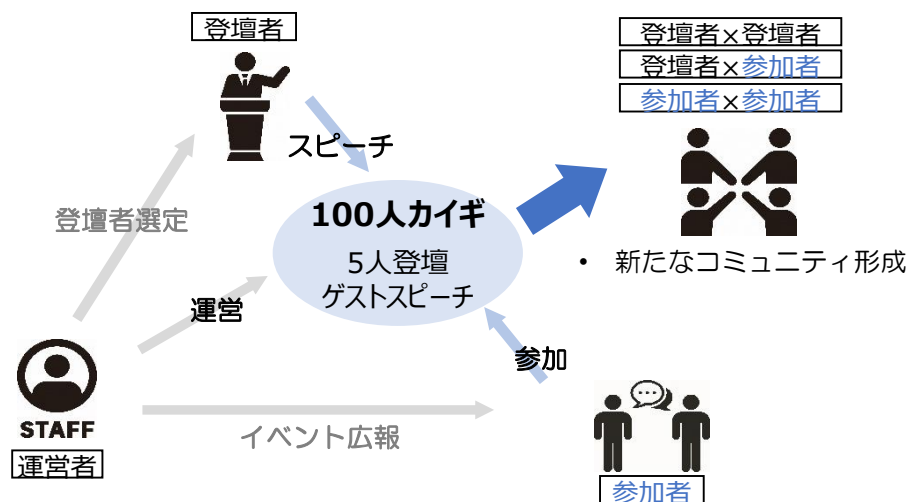
地域で活動するプレイヤーのコミュニティ構築

来訪ターゲット

SDGs、まちづくり、ビジネスに関心のある企業・団体・個人

実施体制

丹後100人カイギ実行委員会



実現できたこと

- 万博の機運醸成と地域でジャンルを問わない交流による新たなつながりを創出するべく、これまでに計7回開催・累計参加者数239人
- さまざまな背景を持つ個人が交流し、新たなつながりが生まれている

課題

- 万博の機運醸成としては、始める時期が遅くなってしまった。（第1回目は2024年12月）

概要

- SDGsに取り組む市内の企業、団体、NPO、個人の交流や情報交換等を通して、各々の活動の活性化を図るための場として創設された「京丹後市SDGs推進市民会議」。
 1.SDGsに関する取組の共有及び情報発信に関すること。 2.SDGsの普及啓発に関すること。
 3.会員間の連携やマッチングの支援に関すること。 4.SDGs関連施策に関する市への提言に関すること。 など
- 2025大阪・関西万博の取組に賛同する事業者を可視化することで、会員同士が連携・協働して具体的な取組を推進し、SDGsの達成及び持続可能なまちの実現に寄与する。

2025年に目指す姿

本市でSDGsに取り組むプレイヤーの交流基盤の充実

参加者

市内の事業者、団体、個人、小中学校、高校など

実施体制

京丹後市政策企画課、京丹後市SDGs推進市民会議



実現できたこと

➤ビーチクリーンや海洋プラスチックごみのリサイクルを実施している（株）あしあとの取組について、市外の企業や大学が現地視察に訪れている

課題

➤会員に対し、万博の取組を共有したが、具体的な共創の取組の実現には至らなかった

概要

- 企業や団体による大阪・関西万博を契機とした取組、活動を応援するとともに、広く発信することで、大阪・関西万博を契機とした様々な取組の創出を促進していくことを目的に、京都府が認証制度を創設。
- 丹後の事業者・団体・個人・小中学校・高校生などの様々なプレイヤーが申請、認証を受けることで、万博機運を醸成し自分ごと化して万博に積極的に取り組んでいくことができる。また、波及効果により、地域全体での万博への機運醸成、取組の活発化が起こる。

2025年に目指す姿

各分野の取組が認証を受け、地域一体で取組を実施

ターゲット

丹後の事業者、団体、個人など

実施体制

京都府総合政策環境部総合政策室



実現できたこと

- （株）小谷常は認証取得をきっかけに京都駅ビル「EKIsport」での展示等万博関連のイベントに参加する機会が得られ、PRにつながった。
- 道の駅丹後王国「食のみやこ」も認証を取得しており、京丹後の食材を使用した長寿食や健康ウォーキングなどの体験コンテンツ等を提供し、「健康長寿のまち京丹後」の発信に取り組んでいる

課題

- 京丹後市内で認証を取得した事業者は3事業者にとどまった

概要

- 京丹後市のHPに万博用ページを作り、ロードマップ・協議会・各プロジェクト等の情報を鮮度高く発信していく。
- 外部サイト（万博協会主催のTEAM EXPO2025、京都府の万博用ウェブサイトなど）も活用していく。
- 情報鮮度を保つために、各プロジェクトで広報担当を決めるなど情報発信の仕組みを構築する。
- SNSで発信するためのハッシュタグ（例えば「#丹後でワクワク万博」）を設定するなど、市民・市内企業など多くの方を巻き込みやすい仕組みを作る。
- 積極的に発信していくことで、万博に向けた機運醸成だけでなく、市民が本市の魅力を再認識することによるシビックプライドの醸成、対外的には京丹後市のシティプロモーションに繋げていくことを目指す。

2025年に目指す姿

積極的な発信が常態化している

ターゲット

国内外のすべての人々

実施体制

京丹後市、市内の企業・団体

実現できたこと

- 市の広報誌や特設サイト、LINE等でイベントの情報発信を行い、集客に努めた
- 外部サイトも活用し、市の特設サイトに誘導するようにした
- 事後についても、写真等を特設サイトにあげることで、イベントの様子が分かるような工夫を行った

課題

- 各プロジェクトで広報担当を決めることはできず、多面的な視点での多様な情報発信ができなかった
- 民間事業者からの発信を促すことができなかった

概要

- 京都府立医科大学から、世界長寿サミットの開催提案。行政、アカデミア、産業界、市民等で連携し、日本国内だけでなく世界各国に対して、本市が持つ長寿の強み・魅力を可視化し認知度を向上。
- 万博会場での催事出展や、日本抗加齢医学会とも連携するとともに、長寿サミットに併せてヘルスツーリズムを活用することで、万博期間内の誘客促進を行うだけでなく、本市の魅力発信を最大化。
- 中高生も巻き込み、全階層で長寿について考えるきっかけとする。
- サミットの最後には、健康長寿に関する宣言と参加者調印を行う。

2025年に目指す姿

世界長寿サミットの開催による長寿のまちとしての認知拡大

来訪ターゲット

健康・長寿に関心の高い方

実施体制

京都府立医科大学、京丹後市、京丹後市観光公社、大阪観光局ほか



実現できたこと

- 国内外の長寿研究者や医療従事者が京丹後に一堂に会しサミットを実施した
- 市民公開講座には、市外からの一般参加者も多く訪れた。多くの人が健康長寿に関心が高いことがうかがえた
- 外務省の後援を得ることで、アメリカやコスタリカ等世界各国の協力が得られ、国外からの関心も高まった

課題

- 健康長寿を全世代の課題とするべく、中高校生が参加発表見学ができる時間を設けたかった

概要

- 多くの百寿者を育んだ伝統食として、「まごわやさしいこ」をテーマに、地元でとれた食材を使って体に優しい食事をお客様に提供する。
まごわやさしいこ = 「まめ」「ごま」「わかめ」「やさい」「さかな」「しいたけ」「いも」「こうそ」
- ジオトレッキングと掛け合わせヘルスツーリズムを推進
- 丹後管内の様々な宿泊、飲食事業者が取り組むことで、丹後の郷土料理として発信を行う。

2025年に目指す姿

市内全域の宿泊事業者で展開

来訪ターゲット

健康・長寿に関心の高い方

実施体制

京丹後 ⑩ おかみさんの会 など



実現できたこと

- 長寿弁当の披露
- 万博会場での展示による長寿食の認知拡大

課題

- 京丹後 ⑩ おかみさんの会や市内事業者を巻き込むことができなかった

概要

- 将来世代（市内の高校生等）が中心となって企画・運営するSDGsの祭典である「丹後万博」の開催を通じ、SDGsの理念の浸透を図り、その達成に向けた取組を加速させるとともに、先端技術の活用や環境問題への新たな挑戦など、地域課題の解決策を提示し、2030年のその先のまちの姿を考える機会を創出することで、万博への機運を醸成する。
- 市内に所在する京都府立高校の生徒を中心に、地域の多様なステークホルダーが参画する丹後万博開催実行委員会を組織し、市内外の企業や大学等との連携のもと、SDGsをテーマにしたステージ発表や体験コーナー、食のコーナーなど、様々なコンテンツを企画、実施することで、世界に向けてSDGsの理念の浸透を図り、その達成に向けた取組を加速させる。

2025年に目指す姿

地方における産官学（+高校生）連携による実践的なESD推進の仕組みの構築

来訪ターゲット

市内外の様々な団体、個人など

実施体制

丹後万博開催実行委員会



実現できたこと

- 万博を契機に大阪観光局と連携し、タレントの村上信五氏に來丹いただき、高校生との交流が実現した
- 万博の機運醸成につながった

課題

- 丹後万博が今年は開催できず、代替となるイベントも実施できなかった

概要

- 京丹後市の地場産業である丹後ちりめん、機械金属業を中心としたモノづくりや、農業、宿泊施設など様々な現場を開放し、普段見ることができない現場や職人のワザ、こだわり、さらには受け入れる気持ちなどもオープンにする取組。
- これからの歴史と文化を担うモノづくり現場が、国内のみならず、世界中から訪れる人との交流、新しいアイデアの創出やコラボレーションを活性化させる場となり、京丹後が持つ魅力の可視化・認知度を向上。
- 万博を地元が地場産業を知る契機とし、理解が得られた状態でオープンファクトリーを地域一体で取り組み、魅力的なサテライトパビリオンとして発信し、本市への誘客に繋げるとともに他地域の産地間での交流・連携を行い、共創を促進する基盤を構築。

2025年に目指す姿

様々な業種のオープンファクトリー実施事業者を繋ぎ、国内外からの受入基盤を構築

KPI

オープンファクトリー参加企業 30社

来訪ターゲット

都市部・海外の企業、ビジネスパーソン、クリエイター、デザイナーなど

実施体制

市内各事業者、ツアーコーディネーター、京丹後市など



実現できたこと

- 万博への出展により、約2,000人の方に京丹後のモノづくりを紹介できた
- OFツアーの実施
- 特設SNSの開設
- 万博をきっかけにエジプト等中東地域とのつながりが生まれ、中東の展示会に京丹後市の企業が出展するなど、ビジネスチャンスが生まれ始めている

課題

- ものづくり事業者や他業種（宿泊業・サービス業等）の参画企業をどう増やしていくのが課題

概要

様々なモノづくりのある丹後で、業種を超えた連携によるモノづくりを積極的に行い、新たな商品開発の基盤となる関係性の構築や、それらを通じた各業界への魅力向上を行う。

【丹後の異業種組合による新織機開発】

- 織物業界の衰退により生産基盤が危機的状況にある中、丹後の地場産業である丹後織物工業組合と丹後機械工業協同組合が連携し新織機を開発。
- 併せて、航空宇宙分野などシルクの機能性を活かした新たなものの実践に取り組み、産業の維持発展を目指す。

【万博を記念した日本刀制作】

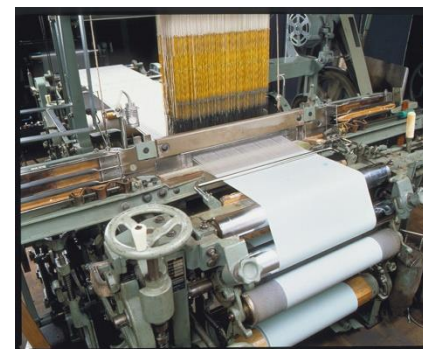
- 万博を契機として、丹後の異業種間で連携して記念の日本刀の制作に取り組む。

2025年に目指す姿

- ・ 連携した各産業界の魅力向上注目拡大
- ・ 異業種間での共同制作基盤の構築

実施体制

- ・ 丹後織物工業組合×丹後機械工業協同組合
- ・ (株)日本玄承社×ちりめん事業者等 **ほか**



実現できたこと

- レジンに再封入した日本刀を万博で展示した
- 万博をきっかけに廃材を活用したスツールを作成し、万博会場で使用

課題

- OFでの企業同士のマッチングの機会が期待していたほど生まれなかった

概要

- バケツリレーで漂着ごみを搬送する「水晶浜大作戦」やビーチ斉クリーン作戦を行い、本市の魅力での一つである山陰海岸ジオパークの景観及び自然環境を守る。
- 海水浴場を訪れた観光客に片手で拾える程度の海岸漂着ごみを回収いただく「ワンハンドビーチクリーン」を実施し、「訪れた方」と「地域」がともに海岸保全を行う「観光SDGs」のまちを目指す。
- 樹齢約350年で北近畿最大級の内山ブナ林を知ってもらうための「観察会」を行うことで、保全の輪を広げていく。

2025年に目指す姿

自然環境と共生する豊かな市民生活の実現

来訪ターゲット

海水浴場を訪れる域外の観光客

実施体制

環境活動を行う民間団体、宿泊事業者、市生活環境課



実現できたこと

- バケツリレー形式でビーチクリーンを行うことで、女性や子どもでもビーチクリーンに参加することができた
- ビーチクリーンの参加者に山陰海岸ジオパークの景観や自然環境を守るという意識づけができた

課題

- 参加者の確保が課題（水晶浜大作戦では（株）あしあとの主催で限定Tシャツを配布した）

概要

- 文化芸術・文化財・観光が連携して、多種多様な“文化資源”を活かし「なつかしい日本のふるさと・京丹後」を創造・発信する。
- 文化資源を活用したツーリズムによって、地域・世代・国籍などを超えた交流を図り、文化芸術の力を地域振興につなげる。
- 対外的な事業の創造・発信を契機に、市民が丹後の資源の豊かさやその魅力を再認識することで、より一層の愛着と誇りを育み、次世代へ歴史や文化の継承へとつながる一連のサイクル（発信↔愛着・誇り↔継承）を生み出す。
- 網野銚子山古墳を中心とした日本海側での古墳ツアーの実施や、京丹後アートフェスティバルで地域資源をモチーフに制作したアーティストによるパフォーマンス等

2025年に目指す姿

京丹後の多様で豊富な文化資源が、地域から発信されるまち

来訪ターゲット

オープンファクトリーなど目的を持ち京丹後に訪れる、世界中からの大阪・関西万博来訪者

実施体制

京丹後市、京丹後市教育委員会、ほか文化芸術に関わる団体等



実現できたこと	課題
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 古墳巡りツアーの実施 ➤ 京丹後アートフェスティバルの開催 ➤ 地域の文化資源の魅力再発見 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 市外からの誘客が課題

概要

- 本市の地域資源を活用した様々なツーリズムを展開し、様々な国、文化の人が訪れるきっかけを作り、本市に対する認知度向上を目指す。
- また、単なる来訪ではなく、異文化間での交流やビジネスマッチング等を促す仕組みを取り入れ、今後に繋がる関係性を構築することで、レガシーとして関係人口の増加も目指していく。

	活用資源	内容	実施体制	ターゲット
ヘルスツーリズム	健康・自然	「健康」をテーマとして、自然に景観、そこで育まれた食材による郷土食、運動などを実践	京丹後市観光公社 京丹後市	海外の富裕層
アンラーニング ツーリズム	産業・文化・ 芸術	「学びほぐし」をテーマとして、本市の深い歴史・文化や、現代のものづくり産業、アートを掛け合わせ、観るだけではなく新たなものに触れ、学ぶ観光を実践	京丹後市観光公社 市内事業者（OF） 京丹後市	アーティスト、クリエイターなど

2025年に目指す姿

文化芸術による地域活性化の新たな羅針盤となる



実現できたこと

- 世界長寿サミットや万博会場でヘルスツーリズム体験を実施
- 大阪観光局と共同で、京丹後市のモデルコースを設定し、大阪観光局HPでPR
- ヘルスツーリズムの取組を「TEAM EXPO 2025」プログラムの共創チャレンジとして登録

課題

- 外国人対応が可能な宿泊施設やレジャー施設を増やす取組の実施が課題

万博期間中の導線等

①会場からの誘客



対象	手段	時間	整備すべき事項
個人・家族	鉄道	3時間	Willer、JRとの連携
	バス	3時間	Willer、丹後海陸交通バス、阪急交通との連携
	タクシー	2.5時間	—
	レンタカー	2.5時間	—
団体	貸切バス	2.5時間	旅行会社に向けたPR
富裕層	ヘリコプター	1時間	発着場所、運航会社の確認事項、実現性

②市内周遊



二次交通	整備すべき事項
Mobi	エリアの拡大 Willerとの連携
バス	丹後海陸交通バスとの連携
タクシー	ライドシェアの検討 市内タクシー事業者との連携
レンタカー	現在複数社あり、 市内事業者との連携
貸切バス 貸切タクシー	ツアーごとに設定
その他	自動運転の実証事業など (岐阜市の事例を参考に)

③市外連携



次の目的地	整備すべき事項
○山陰海岸 ジオパークを目的に鳥取、兵庫等との連携	<ul style="list-style-type: none"> 山陰海岸ジオパークを中心とした、ツアー等での連携を働きかけ
○若狭 敦賀、越前方面との連携	<ul style="list-style-type: none"> 新幹線敦賀駅の開通をきっかけとした、若狭エリアからの誘客 JR西日本やWillerとの連携を働きかけ

実現できたこと

➤ 万博会場からの動線は確保することができた

課題

➤ 市外連携がうまく取れなかった

受入体制の強化（国際、防災、アクセシビリティ対応等）

概要

- 万博期間中の入込客数増加を見込み、宿泊機能の強化に係る検討。
- 海外誘客も視野に入れ、異文化への理解や交流等を促進していく。
- 滞在中の観光客に対する防災対応を意識する。
- バリアフリールートの作成や障害者用トイレの場所を明示、完ぺきでなくても、手話を学ぶなどの寄り添う姿勢や現状の対応情報を提供することで誰でもウェルカムという姿勢を見せ、丹後を選んでもらいやすい体制を作る。
- 写真でスロープ写真を投稿したり、「Accesible」というワードを使うことで、インバウンド旅行客にも、候補として検索される。

2025年に目指す姿

誰でも観光や旅行を楽しめる時代へ（アクセシブル・ツーリズム）

来訪ターゲット

障害者、高齢者や異文化の外国人も含めたすべての人々

実施体制

京丹後市観光公社、障害者団体連絡協議会、市障害者福祉課等



実現できたこと

- 宿泊事業者向けの英会話の出張講座の実施
- 多言語対応インタープリター（通訳）紹介サービスの実施
- 宿泊施設のレストランメニュー等の外国語翻訳支援

課題

- 障害者に配慮したバリアフリーの客室の用意等、個別に対応した宿泊施設はあったものの、足並みをそろえた対応をとることができなかった